

魚野のかけ橋

かけ橋とは…

農地と担い手をつなぐ…
現場と農政をつなぐ…
消費者と農業者をつなぐ…
農地と農村をつなぐ…
次の世代と農業をつなぐ…

かけ橋



食育出前授業（塩沢小学校）

子どもと考える南魚沼の「食」

南魚沼市立塩沢小学校

5学年担任 渡邊 就



日本有数の米どころ南魚沼で生まれ育った子どもたち。給食の食缶が空にならない日はほとんどない5年生ですが、自分たちの食べているものがどのように、どんな想いで作られているかまで

はあまり考えたことがないようでした。田植え体験の後、「田んぼの水はどこから来ているでしょう。」と子どもたちに聞くと、川から自然に流れてきているという声が多く聞かれました。揚水機場で川から水を汲み上げ田んぼへ送っている様子を見て、田んぼの管理に関わっているのは農家の方々だけではないことに気付きました。

7月には市内で数少ない、マガモ農法を行っている方に田んぼを見せてもらい話を聞きました。マガモの世話にかかる手間や、農薬を使わずに稲を成長させる難しさを知り、それでも安全なお米を届けたいという生産者の想いに触れることができました。

11月の食育出前授業では、農業委員の皆さんから「お米ができるまで」、「食べることの大切さ」の講話とぬか釜体験をしていただきました。ぬか釜体験では、初めて見るぬか釜に興味津々で、火を付けた後、声を揃えて「おいしくなあれ！」と願いを込めました。釜から立ち上るお米の香りを楽しみ、おにぎりを食べました。子どもたちの笑顔やおかわりに並ぶ長蛇の列から、感動の大きさが伝わってきました。

今回の食育出前授業を通して、南魚沼の食の素晴らしさ、その裏にある様々な人の工夫や努力を学ぶことができました。そうした人々の想いを、これからは生きる子どもたちに繋いでいってほしいと思います。



南魚沼市農業委員会へのお問い合わせは

電話 025-773-6664 FAX 025-773-6710

E-mail nouchi@city.minamiuonuma.lg.jp までお願いします。

食育出前授業

農業委員会では、毎年小学5年生を対象に、食育出前授業を行っています。

これは、故郷の誇る「南魚沼産コシヒカリ」の味の再確認、そして「お米ができるまで」と「食べることの大切さ」を児童たちに学んでもらうことを目的に実施しています。

授業では、学校田で児童たちが育てたお米など地元のコシヒカリをぬか釜で炊きます。児童たちには、ぬか釜の中に燃料となるもみ殻と杉の葉を入れてもらい、ご飯が炊き上がるまでの時間を利用して、お米ができるまでの作業工程やごはんを食べることの大切さなど、2つの講話を行います。(写真)

最後に、炊き上がったご飯で児童たち自らおにぎりを作って食べることで、お米本来の味を楽しんでもらっています。



講話「お米ができるまで」

食育感想文

三用小学校

6 / 14 実施



5年 石田ちなみさん

私は、ぬか釜体験をやってみて、釜でお米を炊くとき、杉の葉ともみがらを燃料としていることを初めて知っておどろきました。お米が炊けたら食べました。おいしくて、釜を使っていた昔の人たちがうらやましくなりました。みんなで協力し、楽しくお米が炊けてよかったです。

5年 駒形 冴彪さん

ほくが、ぬか釜体験で楽しかったことは、お米を杉の葉と、もみ殻で炊くことです。炊き終わったらお米の香りやつやがあって、食べてみたら、もちもちで、とてもおいしかったです。ほくが学校で育てているお米も、香りやもちもちの食感があるおいしいお米にしたいです。



炊きたてのお米 (三用小学校)

藪神小学校

6 / 16 実施



5年 佐野 日和さん

ぬか釜でご飯を炊いてみた感想は二つあります。一つ目は、味です。コシヒカリは、少し甘くて新之助は少し苦みがありました。二つ目は、粒の大きさです。コシヒカリより新之助の方が大きかったです。どっちも食べてみておいしかったけど、私はコシヒカリの方が好きでした。

5年 関 健悟さん

ほくが、ぬか釜体験授業で分かったことは、新之助とコシヒカリの味と食感が違うということです。新之助は、甘味が少なく、水っぽくもちもちとした食感でした。コシヒカリは甘味が強く、さらさら感がある米でした。

※藪神小学校では、コシヒカリと新之助の食べ比べを行いました。



炊きあがりに興味津々 (藪神小学校)

城内小学校

10 / 31 実施



5年 南雲 凜さん

まず、もみ殻とスギの枯れ葉を入れて火の材料にしてすごいなと思いました。次に米が入っている釜を上置いてから、だいたい30分待ったら米が炊きあがりました。機械で炊いた米よりモチモチですごく美味しかったです。昔の人はどうやって米を炊いていたかが体験できてよかったです。もみ殻やスギの枯葉を入れてゴミを多く出さず、燃料にもなっているすごいなと思いました。30分待っている時の話も米のことをいねいに説明してもらい、うれしかったです。



協力してぬか釜を準備 (城内小学校)



5年 仲谷理 桜さん

ぬか釜体験やおにぎり作りをして、すいはん器よりも、釜で炊いたお米の方がとてもおいしいことが分かりました。塩やごま塩がついていない、そのままのおにぎりも、とてもおいしかったです。農家の方のお話を聞いて、体は食べた物で作られていることや、最初の米作りは九州だったことも分かりました。

5年 今成結 衣さん

わたしがお話を聞いて考えたことは、人間の体には、たんぱく質やし質、水分、ミネラルなどが必要だということ。食」と「良」という字を分けると「人」と「良」になるから、食べることは人に良いことだと分かりました。お米は、どんなおかずにも合うすごい主食だということが分かりました。



普段とは違うご飯にわくわく (北辰小学校)



5年 山田 真さん

ほくがぬか釜体験を通して最初に思ったことは、ぬかが思ったよりも軽かったことです。

ぬか釜は手間がかかるけど、それ以上に甘くて香りがよくて、味付けがいらなくらいおいしかったです。稲がどれだけむだなく使えて万能なものかも知りました。

今回お話を聞いて、なおさら食に関係する人や食材に感謝して「いただきます」を言おうと思いました。



おいしく炊けることを願って (塩沢小学校)

農地パトロール実施報告



今年度も8月と11月に、農業委員と農地利用最適化推進委員で農地パトロールを実施し、各地域の農地の利用状況と荒廃農地の確認を行いました。農地パトロールは耕作放棄地早期発生防止のため農業委員会の重要な活動です。農地のことでお困りのことがあれば、お近くの農業委員または農地利用最適化推進委員までご相談ください。

(高橋 宏委員)

女性農業者との交流会を開催しました



令和5年12月6日に実施した女性農業者との交流会では、夏野菜の育て方と肥料の管理についての講演をいただいたのちに交流会が行われ、参加者による農地への思いや農業委員会の活動について質疑が飛び交っていました。

(宮田京子委員)



令和7年4月から制度改正により 農地の貸し借りの方法が変わります

変更のポイントは以下の3点です。

ポイント①

令和7年4月から農用地利用集積計画による契約（相対契約）ができなくなり、貸借契約の手続きは、農地中間管理事業（新潟県農林公社）を利用したものに變更されます。具体的には新潟県農林公社が、所有者から農地を借受け、その農地を新潟県農林公社が耕作者へ貸し付けるものとなります。

なお、農地法第3条による貸借契約は、令和7年4月以降も行うことができます。

ポイント②

農地中間管理事業を利用した場合、所有者、耕作者双方とも新潟県農林公社へ毎年手数料を支払わなければなりません。また、賃借料についてお米などの現物による受け取りができなくなる可能性があります。

ポイント③

令和7年3月までに結ばれた農用地利用集積計画による契約（相対契約）は、契約期間満了まで有効です。

※農地中間管理事業を利用していない場合で、現在の農用地利用集積計画での契約を継続したい場合は、令和6年秋までを目途に農業委員会にご相談ください。

知って得する！ 農業者年金

- 農業者なら誰でも入れる「**終身年金**」です！
 - 一定の要件を満たす方には、
月額最大1万円の保険料補助
 - 保険料は**全額社会保険料控除の対象**
など、生涯を通じて大きな節税効果！
- 詳しくは農業委員会へお問い合わせください



市表彰が贈られました
南魚沼市表彰条例により、
関匡和前農業委員会職務代理
が、15年にわたり農業委員と
して尽力されたことに対し、
市長より表彰されました。

農業委員会の主な活動

- ・ 8月25日 第8回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・ 8月28～31日 第1回農地パトロール
- ・ 9月25日 第9回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・ 10月25日 第10回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・ 11月9日 第2回農地パトロール (大和庁舎)
- ・ 11月27日 第11回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・ 12月6日 女性農業者との交流会 (大和庁舎)
- ・ 12月25日 第12回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・ 1月25日 第1回農業委員会総会 (大和庁舎)
- ・ 2月26日 第2回農業委員会総会 (大和庁舎)

編集後記

新年早々に地震に見舞われ被災した皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に1日も早い再建をお祈りいたします。

私たちの地域も夏の猛暑から冬に入り暖冬を感じる気温が続いております。このやや気温の高い状況から低温になる日が続くことも備えておかなければいけないと感じております。災害も含め備えをする、最悪を想定するということはとても大事であると感ずる日々です。

人事を尽くして天命を待つ、日々コツコツとやることは全てに通じて強さがあるなと思いました。
(飯酒丞大祐委員)